

---

# 清き猫

青匙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

清き猫

### 【Nコード】

N2368K

### 【作者名】

青匙

### 【あらすじ】

死に際の猫はどこかへ姿をくらますという。

死に際の猫はどこかへ姿をくらますという。

飼い猫が子猫を産んだのはいいが数が多くて困ると、弱った笑みを浮かべて言う友人から一匹貰い受けた。

白、茶、黒の三毛猫は真つ白い母猫から産まれたとは思えぬほど茶の毛が多かった。

襟首を掴み上げると生意気にも抵抗する子猫に、私は僅か数秒で<sup>まがり</sup>曲と名付けた。

尻尾の先が鍵のように曲がっていたからだ。

鞆の中へ無造作に生き物を放り込む私を、元の飼い主は何か言いたげに顔を顰めていたが、私が友人宅を後にするまでとうとう何も言わず仕舞いだった。それが去年の梅雨時期のことである。

みいみいと鳴き喚く子猫は、飼い主の都合により親元を離れ私の元へ来たのである。

そういつた経緯を辿って来た故か、曲はなかなか人に懐かない猫だった。

家猫として飼わなければ、とつくに飼われた家に寄らぬ野良としての生に走っていただろう。

大人の猫と変わらぬ大きさにまで成長した曲が窓に張り付いて外に熱心になる様子は、その有り得なかった生き方への未練に思える。しかしもう野良に生きるには難しい程家に慣れてしまった曲に野

良は不可能だろう。

それでもそこに野良の自分を見出だすかのように外を眺める様は何とも言えぬ。

人に懐かないのはせめてもの抵抗ではないかと勘繰ってしまふ。

見向きもされなかった猫じやらしは押入れに仕舞ったままだ。

やはり猫とは気難しい。

鍵尻尾を揺らす曲を横目に、私は幼少時代飼っていた猫を思い出していた。

それは曲の母猫と同じ真っ白い猫だった。

金色の瞳の雌猫。

名は白と呼ばれた。

私の幼少時、両親は多忙な人であった。私は母方の祖父の家に預けられて、毎日縁側で寝転んでいた。

情眠を貪る私の脇にいつも控えていたのが白だ。

白もやはり家猫の癖に人に懐かぬ猫であった。すぐ近くいるので手を伸ばすと、白は鋭い鍵状の爪で対抗した。

稀に見ぬ綺麗な毛並みを、人なんぞに触らせたくないと言わんばかりだった。

祖父にさえその姿勢を貫くのだ。

当時、私は祖父がどういった見で可愛いげのない高飛車な畜生を飼っているのか知らなかったが、それはすぐに判明した。

ある日、白は縁側の私の傍に来るのを止めた。

それどころか、餌の時間になって呼んでも姿さえ現さなくなった。私は戸惑ったが、飼い主である祖父が白の話題に触れぬのを見て、祖父に白のことを問うのは忍ばれた。

なので憶測で死に際になって姿を消したのだと無理矢理納得をした。

白の行方が判明したのは、幼かった私が一人で留守番が出来るほ

ど成長してからだ。

祖父が私に見せてくれた三味線。それが答えだった。

これは良い声で鳴く。

そう言っておもむろに演じた祖父の三味線の音色は、確かに良い声であった。

三味線などよく知らない私でも琴線に触れる感動を与える声だ。

もう一度聞いてみたいと思うこともあるが、祖父が亡くなり、三味線がどこへ行ったのか私は知らない。

手に柔らかいものが当たったと目をやれば、窓から離れた曲が頭を擦りつけていた。

触れようとすれば逃げてしまうので、そっとしておく。

そのまま無視しようとして、思い付きで曲に話し掛ける。

「お前も三味線になってみる？」

曲は私に話し掛けられたことなど素知らぬふりをして私の手を甘噛みする。

三味線には未通の雌猫が適しているという。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2368k/>

---

清き猫

2011年10月5日19時49分発行